

## 「JEAC4201 原子炉構造材の監視試験方法」改定案 公衆審査意見に対する対応

### 意見その1

#### 全般について

我が国の原子力発電の経験も30年を越え、多くの監視試験データが蓄積されている。この技術規格を読んだ人が、これまでに蓄積された貴重な経験とデータに接することが出来るように、参考資料の付加、参考文献の提示、データベースの紹介等が欲しい。

#### 対応

付録1に記載されている国内脆化予測式、国内 USE 予測式およびそのデータベースを紹介している以下の2件の公開論文を、解説に追記致します。

(解説-Sa-2120-1) 化学成分

Mishima, Y. et al., 1994, PTS integrity in Japan. *Int. J. of Pressure Vessel and Piping*, Vol.58, pp.91-101

(解説-Sa-2350-1) 上部棚エネルギーの減少率」

Sakamoto et al., 2003, Development of Prediction Equations on Charpy Upper Shelf Energy for Japanese RPV Steels, ASME PVP Vol.468, pp.9-16

### 意見その2

#### SA2000 (監視試験計画), SA3000 (監視試験方法), SA4000 (監視試験結果の記録) について

「具体例」として代表的実例とそのデータを、「解説」と同じように、まとめて示して欲しい。これによって、先述したデータベースへのアプローチが容易になる。方法だけでなく、具体的データを身につける機会を増やすことが重要である。

#### 対応

規格中に実例を記載するのは適切ではなく、また、実例を脚色したデータを掲載するのは誤解を招く恐れがあることから、現行案通りと致します。(米国の監視試験法に関する規格である ASTM E 185 等においても具体的データの記載はありません。)  
なお、引張試験やシャルピー衝撃試験の詳細な試験方法やその結果の評価方法については、本規格に引用されている JIS 規格に詳細に規定されております。

**意見その3**

[付録1](a)、(b)に示された $\Delta R T_{NDT}$ と $\Delta U S E$ の計算式について

具体的数値を代入した数値計算例が欲しい。

具体的データを身につける機会を増やすことにつながる。

対応

これらは容易に計算可能であること、また計算例を記載するのは規程にそぐわないため、原案通りとする（参考までに、日本機械学会の維持規格や ASME Code でも数値計算例の記載はありません）。

以 上